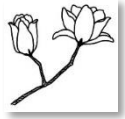


別所憲法9条の会10周年記念手記集

2017年3月



発行 別所憲法9条の会



『あきらめることをあきらめた』

これは、二〇一六年四月にかもがわ出版から出された本のタイトルで、シールズ結成の中心メンバーのひとり、元山仁士郎さんの言葉です。仁士郎さんは沖縄普天間高校の出身で今は東京の大学生ですが、この本の、小森陽一さんとの対談で彼の言葉はどれをとっても、私の胸を打つ。そのひとつは、沖縄の若い米兵に除隊の勧めをやっていること。「(兵士について) 彼らは理性を失う訓練を日常やっていて、事件、事故を起こす米兵もいるわけです。…でも実際に話していると接点が結構ある。彼らと話す、学費が払えないので、軍にはいれば学費免除になるからお金をためて、教師になりたいと言ってる子がいた。琉球王国以来の沖縄の歴史を話したけど知らないという。沖縄で反対運動をしているのは過激派だと教官から言われていると。反対運動の説明をすると、わかってくれた。」「軍人の権利

つてもものがあるから、米兵はこうしたら除隊できるんだと英語で書いて渡している」。これを読んで思い出したのは、鶴見俊輔さんのこと。ベトナム戦争の時代、岩国基地などではベトナムに向かうために従軍していた米兵は脱走することがあったが、鶴見さんはベ平連の仲間を声をかけて、密かに彼らの脱走後の支援をする活動を行っていた。九条の会の呼びかけ人である鶴見さんはすでに亡き人になってしまったが、元山仁士郎さんは、鶴見俊輔さんとながっている、形は違うけれど鶴見さんの心が受け継がれている、と思わずにはいられない。オスプレイという言葉聞いたのは、たしか沖縄の米軍基地に奇妙な型の飛行機が配備されることが明らかになった二〇一二年。開発段階から墜落事故が続き「未亡人作り」の異名もあり、あのととき沖縄では史上最大の十万人の反対集会が起った。それでも何も無かったかのように普天間には二十四機のオスプレイが配備され

た。そして、ついに昨年それは東京の空を飛んだ。別所の秋葉台公園の上空を、十月二十四日朝、わたしの散歩の頭上を爆音を残して飛んだ。日本全国を飛行訓練する計画があると、かつて公表されていたのにもかかわらず、すっかり忘れていたところに。自衛隊木更津駐屯地が米軍オスプレイの整備拠点になったために、あの朝は横田基地から木更津に飛んだのだった。どうして、日本が整備までやるのか。そして、十二月には沖縄で墜落大破などの大事故。東京新聞では「すぐそこに米軍：首都圏基地問題」としてシリーズで、首都圏がオスプレイの拠点になることの不安を頻繁に指摘している。八王子の目の鼻の先にある米軍基地横田には、今年は三機、その後十機が常駐の予定！ 来秋には、オスプレイからステルス戦闘機へ空中給油訓練が始まる計画という。一都八県（東京、栃木、群馬、埼玉、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡）の上空は米軍の支配空域だそうだが、オスプレイ

の日本での飛行は全て戦闘に向けた訓練だ。怒りがこみあげてくる。しかし国のトップが変われば、全てが変わる可能性を今わたしは目の当たりしている。だから私も「あきらめることをあきらめた」。(櫻井民子)



ウォーキングしながら

別所憲法9条の会に私が参加し始めたのは、二〇〇八年十月のことだと、ある世話人のご努力によって作られた、会のホームページの「平和のつどい」の記録を読んで分かった。南大沢の首都大で「平和のつどい」が市内の九条の会と共催で行われたとき、別所憲法9条の会の案内を受け取り、月例会の場所を聞いて迷うことなく参加を決めた。その場所というのは別所長池公園内の自然館だ。二〇〇五年に現住所に引っ越して来て以来、

私は京王相模原線沿線の公園などを歩き回っていた。唐木田から長池公園、せせらぎ緑道は何度か歩いて、心地良く歩けるコースだと思っていた。南大沢駅から自然館までも歩いて二十分のウォーキングだ、そう思うと、ちようど良かった。いざとなれば、バスの便だってある。

月例会では、Nさんご夫妻ほか、世話人の方々が勉強資料を準備してくださいました。資料は、歴史や最近の新聞記事だ。それを題材にして、参加者みんなであれこれ話し合いをする。市内のいろんな方が参加されていて、いろいろな意見が聞けた。戦時中の体験話を聞けることもあった。みんな憲法9条を守り、平穏な生活を守りたいという気持ちから発していた。私自身にとっても、思うことを率直に発言できる貴重な機会だ。私は、第二十四条案を書いたベアテ・シロタさんが二〇〇七年頃に恵泉女子大に来たとき話したことがある。講演会などを案内されて聞きに行くことも増えた。この本が良かったと聞い

て、交換して読んだりもできた。日本国憲法には、9条に限らず、人類が長い苦しい歴史から学び取った知恵が盛り込まれている。これを守っていくには、自由と権利と同様、不断に努力せねばならないと思う。

十周年ということは、月例会の皆さんもそれぞれに十歳を重ねたことになる。世話人の方々のいろんなご苦労には頭が下がる。A4サイズの「たより」を毎月作って、投函か郵便かメール添付で配布もしてくれる。体調が思わしくない方も増えた。私にも情けないことに予想より早く足腰に老化が忍んで来た。

この十周年記念文集を手にとってお読みの方には、ぜひ別所9条の会の月例会に参加していただいで、話し合いの仲間に加わって欲しい。長池公園まで遠い方には、お住まい近くの九条の会にお出掛けいただいで、日本と世界の平和を求める輪に加わって欲しい。思うことを口に



することが難しくなりつつある。そんな生活の質の改善にもなる。(K・T)

憲法が活きた時

私が国民学校一年生に入学した昭和十九(一九四四)年は戦争中の教育が凝縮したような時ではなかったか。遙かな宮城に向かって最敬礼、「うみゆかは…おおきみのへにこそしなめ」「天皇陛下万歳とアツツの島で戦って花と散られた兵隊さん…」などと歌い、国語では「ヘイタイサン スメスメスメ…」を読んだ。進んだ先で起こることは想像できなかった。戦争の終わる五日前に東北の町にも空襲が。

九月中旬、一夜にして家の明け渡しを命じられ進駐軍がやって来た。彼らは明るく陽気だった。半年後部隊は去って行った。この時私は八歳、今年八十歳。今も米軍基地に脅かされ続ける沖縄、なんとという落差！。旅館は休業状態、閑になった父は、二年生最後の学芸会に「新版さるかに合戦」を作ってくれた。もう戦いはしない、みんな仲良く、平和がいちばんというものだった。食べるものがなくひもじかったが、世の中がとても明るくなった気分だった。それから民主主義の時代になった、戦争はもうしない、そのことを私たちのまわりを包む空気のように思ってきた。

一九六二年、急に、ある私立高校に勤めることになった。紹介のため集められた生徒たち、ふらつく一人に校長の怒声が飛んだ。突然国民学校の朝礼を思い出した。校長は元陸軍参謀で、経営者に見込まれ、この新設校を任せられたのだった。担任が退職してしまったという一年生の

クラスを持たされた。「みんなで歌える歌は？」彼女たちが歌いだしたのは「：おお自衛隊」、昨夏の自衛隊キャンプ場の合宿で教えてもらったと。とんでもないところに来てしまった。学生生活最後の一九六〇年は毎日のように国会のデモに通った。こんな学校が存在するとは予想もできなかった。六十歳近い校長は鍛えた身体で精力的に動き、しつけ教育の徹底と、朝は校門で服装検査、朝礼や職員会議では長々と自説を説いた。そして、三年生の男子全員に自衛隊の入隊試験、特別な資格が得られると熱心に勧めた。いつまでも怖がって黙ってはいられない。数人で頭を寄せ合い考え出したのは、「学校とは、たとえ私立であっても、基本になるのは教育基本法、そしてその根底となる日本国憲法。」どこをどのように話するか、こんなにこの二つを身に染みて学んだのははじめてだった。ほんとうに良いことが記されている。救いの神に出会ったようだった。どこをどのように取り上げたの

か、夢中で殆ど覚えていないが、校長は反論しなかった。まわりを見てもまだこのような学校は特異だった。築いてきた信念はまげないものの、熱意を持った若い者の意見に耳を傾けるころがあった。自衛隊の合宿や試験はやめられた。公立学校には当たり前のようにあった労働組合をつくるために、私たちは労働基準法なども一生懸命に学んだ。校長が代わる数年後までに学校は少しずつ変わっていった。

一九八二年、回復の難しいリウマチという病気で、私は仕事を辞めた。自分の療養に加え、子どもの難病で思うに任せない日々が続いた。夫の定年退職で私も少しゆとりができた頃、地域の女性たちの集まりで「憲法を学びたい」と声が上がった。公立学校もかつての私たちの学校のような様相を帯び、9条がないがしろにされる状況が進んで来た。著名な人たちによる「九条の会よびかけ」は嬉しかった。男性も加わり私たちの「別所憲法9条の

会」が発足した。社会科の教師として、とりわけ「憲法」に熱を入れてきた夫も世話人となり、家で座り込んでいた私も元気になる場ができた。ふりかえれば、地域のみなさんと知り合い、いろんなことをやってきた。昨年、夫はダウン、私も相変わらずのよたよた、でも状況は厳しく、怒りもふつふつ。お互いに身体相応できることをみなさんとやっていきましょう。(成瀬)

憲法9条は平和主義です。平和を守り続けなければ！



今、権力者が平気で嘘を言ったり、意見の違う相手を攻撃したりと、今までの正しさに対する価値観が崩れだしているようで

怖いです。

世界は乱気流の時代に入ったと言われ始めています。今このような時代だからこそ私達は平和主義を守っていかなければと強く心に思います。(A・T)



憲法「9条」に寄せて

日本だけでなく、世界の歴史は、悲しいかな、戦争の歴史と言っても過言ではありません。そして、その度にたくさんの人々がどんなにか無念の死を遂げ、それぞれ地獄の苦しみ、悲しみを味わわされたことでしょうか。

こうした、私たちの想像を絶する犠牲とその深い反省の上に今の憲法が作られたことを思うと、この憲法を守り生かしていくことこそが、今生きている者の使命であるように思います。そして、そのことが国家のために不本

意な犠牲を強いられた人々への何よりの鎮魂になるのではないのでしょうか。

二十一世紀は、いえ、二十一世紀こそ、戦争のない平和な世にしていきたいもの。「人類の歴史が戦争の歴史」だなんて、そんな情けない現実から一日も早く逃げ出したいものです。

憲法の9条で唱っている「武力の放棄」。これは本当に「世界遺産」に値する素晴らしい条文です。どんなことがあっても「武力は使わない」紛争はどこまでも話し合いで解決する。これこそが平和を守る唯一の方法だと日々思いを深めています。ひとたび「武力」を持てばいつでも「武力」が使えることになり、安易に戦争ができる国になってしまいます。(いま、日本はまさにその状態にあります。)戦争がなくなるか否かは、私たち一人ひとりの良心とその働き、日々の活動にかかっているような気がしてなりません。

【9条は幾千万の還らざる命にかへて生まれしものを】
(F・H)



ご都合主義、手前勝手な「別所9条の会」参加者ですが…

リタイアして間もなく、サラリーマン生活の整理も一区切り出来て、これからの新しい日常生活をどうするか考えていた時、新聞折り込みで見た首都大での「九条の会講演会」を聞きに行きました。それまでは職場や同業OBメンバーの「九条の会」に参加していました。

会場で偶然にも何十年ぶりに若いころ共に労働組合活動で顔を合わせていた友人に会いました。彼は講演会が終わった帰りしな、熱心に地域の皆さんと知り合うことの大切さ、有り難さを語ってくれました。しかし、間も

なくその友が亡くなったと「別所9条の会」の方から聞きました。

以来、友人の声を思い出しつつ、送って載っている「たより」で例会内容、参加者の声、投稿、次回のテーマなどを読みながら、でも自分の都合が付くときに、関心あるテーマの時にだけ出席する甚だ手前勝手な一参加者になって今日に至っています。

最新号の「たより」は何と第一一〇号！ 世話人・編集・執筆の皆さんの永きにわたるご苦労に只ただ感謝、敬服脱帽です。

実は、私が例会に参加して感心しつつ、でもビビっていることが二つあります。

一つはともかく参加者の皆さんが当然とはいえ、社会と政治の有り様について新聞をよく読み、本も読み、テレビも見てそして機会あれば講演会にも出かけられるな

ど、勉強されていることです。教えられるばかりで、到底敵いません。

二つ目はそのご努力の結果と思えますが、皆さん大変フットワークが軽く、駅頭宣伝、国会前抗議集会、八王子アクションにもどんどん出かけられることです。当方の日和見出不精、恥ずかしい限りです、お許しください。会の皆さんがお元気なのはこの二つがその源だと思うので、私も見習わなければとは思っているのですが…。

ところで、私は今、日本、アメリカ、ヨーロッパの政治状況にこれまでに無く強い危惧を抱いています。それは戦後最悪の安倍晋三首相によるファッショと言える愚民政治、トランプ米大統領流ポピュリズム、ヨーロッパ極右政党の狭隘なナショナリズムによって、特にアメリカと日本の政治動向は国民の基本的人權、立憲・民主主義、言論・表現の自由を抑圧して戦争と他国侵略への道を一層エスカレートさせていくと思うからです。

私はこの世界的な危険な潮流に怒りをもってNOと云うためにも、そして日本が再び戦争で人びとを殺さず、また自らも殺されない国とするためにも、願いは一つ、日本国憲法を守る、憲法9条第一項、第二項を守り、変えさせないこと。そのために多くの人たちと手を繋ぎ、仲間を迎えることだと思っています。その一人でありたいと思っています。

「九条の会」が発足して十三年、「別所の会」十周年、継続こそ力、闘う力ですね！（K・G）

小指の先程の火種も消さなければ

私は、一九三五年三月三日に東京の下町と言われている墨田区向島寺嶋町で生ま



れました。

当時の日本は、中国をはじめ朝鮮やアジアなどに軍隊を送り、やりたい放題のことをしていました。シンガポールが陥落した、マニラを陣取った、と人々は提灯や日の丸の小旗を振り連日連夜行列をして湧きかえっていました。夜、我が家の前を通る提灯行列を見ると何故か怖くて泣いていたのを思い出します。

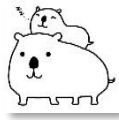
東京の空に初めてアメリカの偵察機が飛んで来たのは昭和十九年のはじめと聞いています。

「東京の空に敵さんの飛行機が飛んでくるようでは、日本は負け戦をしているのではないか」と大人達の間でさやかれ始めた昭和十九年四月に家業の始末のため父と姉二人（十八歳と二十歳）を残して父の故郷の千葉県に疎開をして間もなく、三月十日の空襲で着の身着のまま父と姉たちが疎開先に逃げてきました。幸いなことに家族八人無事でいられた事が何よりでした。

まもなく八十二歳になる今、平和で生きて七十年余、この先何年生きられるか分からないけれど、平和をしつかりと手に掴んで死ねたら幸せです。

平和の中でのびのびと育つことも達のために、戦禍で苦しんでいる子ども達のために、小指の先程の戦争の火種も消さなければとの思いで、ピラを手渡し、署名をと駅前立っています。(安藤君子)

十周年記念誌に寄せて



別所9条の会十周年!! 継続は力です。おめでとугびざいます。「今後のご発展をお祈りいたします」としますと、他人事にな

ります。皆さんと力を合わせて、ますます活動を広げて行きましよう。

わたしども夫婦が、八王子市に移住したのが、二〇〇七年十一月ですから、別所9条の会が発足した前後になりますか? 当初、わたしどもはそれとは知らずに、暮らしていたわけです。でも皆さんの仲間に入れていただき、月に一度の例会や活動で一緒に過ごさせていたいただいて大変喜んでおります。今後ともよろしくお願いいたします。それにしても、N氏が体調を崩されたのは、残念なことでした。去年の暑い中の安保法の抗議行動の影響もあったと思いますが、一日も早く回復されるのを祈るばかりです。

安倍晋三首相の去年暮れからの行動は、まさに、米国の走狗になり果てました。見ていてこれが日本の首相かと嘆かわしい限りです。米大統領にトランプが勝利するとすぐトランプタワー訪問。第一の尻尾振り。大統領就任後、いち早く首脳会談、別荘まで大統領専用機で一緒に過ごさせていただいて、ゴルフと食事を共に。上気して感激

のあまり、ついペコペコしてしまって、外交のいろはを忘れて、我が国を売り渡すようなことはなかったかどうかを検証する必要があります。バーボン酒を飲み過ぎたのでしょうか？ 「日本が米国の武器を輸入すれば、米国の就業率の向上に貢献できる」と、衆議院予算委員会で見かけました。約束したから言えることです。啞然として二の句が告げませんでした。

尖閣諸島は、日米安保の範疇に入るといわれ、思わず二やり。米軍の経費負担はお手本とほめられ、鼻がピクピク。「一旦緩急あれば先陣を承ります」と忠義を表明。老獺な海千山千に踊らされた、首脳会談でした。孫悟空がお釈迦様の手のひらで張り切っているのを、思わず連想した次第です。

米軍北部訓練場のヘリパッド建設工事や辺野古新基地埋め立て工事再開に目を奪われているあいだにも、着々と進められているのが自衛隊の沖縄配備です。特に中国

の目に余る軍備拡張のすさまじさに、恐怖を抱いている政府と与党（米国も迷惑顔）は、これに負けないように対策を急いでいるようです。

沖縄と言うと米軍基地。自衛隊の存在はあまり目立ちません。那覇空港に到着し、ターミナルまで移動するとき、以前は見えて安心感を与えた、海上保安庁の飛行機類がターミナルの反対側の海寄りに移動させられました。そのかわり、目に入るのが、陸上・海上・航空自衛隊の飛行機が翼を並べている姿です。それを見て異常な感覚におちいります。沖縄の空の玄関口である那覇空港でいきなり目に入るわけです。特に戦闘機群の整列には身内にあせりのようなどうしようもない感覚がしてきます。わざと見る人に緊張感をあおっているようです。

北朝鮮の度重なるミサイル発射や、中国の軍備拡張、南シナ海の領有権争いなどが、緊張を呼び、米韓共同演習や日米共同演習・離島奪還共同作戦などが人知れず繰り

返されてきています。尖閣列島に近い八重山諸島方面では、住民の反対にもかかわらず自衛隊の配備が進められようとしています。

沖縄県内の自衛隊基地や関連施設は、沖縄本島や離島を含めて三十三カ所。陸、海、空の三自衛隊がそれぞれ部隊を配置しています。過重な米軍基地の間を縫うように自衛隊施設が整備されています。米軍施設の日米共同使用が進めば、米軍と自衛隊による「二重の基地負担」を沖縄県民が負うこととなります。

これに加え、尖閣列島に中国の公船や漁船が入域して、その都度海上保安庁が神経をとがらせていることも合わせて、防衛省は宮古島、石垣島などへの部隊配備を強化する構えで、隊員や施設がさらに増える見通しです。米軍基地の共同使用が目立ち始め、米軍方式になっていく自衛隊も目が離せません。自衛隊の沖縄配備についても調べておく必要があると思います。(牧 隆鏡)

十年を経て



もう十年もたったのね。私は受験勉強だけで高校でもどこでも現代史を勉強して来なかったので、歴史の学習と政治のおしゃべりなんかしたいなと軽い気持ちで参加したのに、もう十年以上も続けられてきました。

それには、高校の社会科の先生をしてた人や長崎原爆でお兄さんをなくされた人とか戦争の悲惨さを経験された方など、二度と戦争はゴメンだとの思いを強く持つてる方々の熱意にささえられての十年だったと思います。

この間にフクシマの原発事故がありました。事故が起って初めて、日本の海岸のいたるところに原発があることを知りました。日々電力の恩恵に浸りながらもいつの



間にこんなことになっていたの？と。事故や廃炉の事を考えると呆然としてしまいます。

日頃、自分も含めて多くの人が家族のことだけに埋没がちです。自分の今が良ければ、沖縄も南スーダンで起こっていることなど関心が無い。我家の子どもたちも新聞も読んでは暇ないと、時々ネットでニュース見る程度。無関心、忘却がもたらす社会は？「ポスト真実」という言葉が頭をよぎります。(K・S)

メッセージ

みなさんと出会い、たくさんの人たちの努力の積み重ねの上に今までの平和があったことに気づきました。そして団結すれば大きな力になるということも実感しまし

た。すごい政治が相変わらず続いています、いつもこのことを忘れず頑張っていると思います。(細野)



別所憲法9条の会

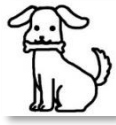
大江健三郎の作品をずっと好きでした、よくわからない内容が多いけれど。不器用なまじめさも。

井上ひさしのユーモアとわかりやすさ、戯曲東京裁判三部作での指摘、加藤周一の知性、小田実の行動力など、九条の会呼びかけ人の皆さんに惹かれていたことも大きいのですが、高校時代からの長い「9条への愛着」から、別所にも9条の会ができたと聞いて来てみました。例会に来るたびに沖縄のこともいろいろ知ることができるのは嬉しいです。

みなさん真摯に話をし、行動する一人ひとりの在り方に心打たれます。

グズグズという定まらない私ですが、私にもできることをしていこうと思います。

さらなる十年をめざして…。(斉藤晴美)



せつしのドロップ

二〇一六年十一月に公開されたアニメ映

画「この世界の片隅に」が翌年一月下旬ま

でに一一〇万人の観客を動員するというヒット映画と
なっていると。呉の空襲と広島原爆投下が背景。
若い人も大勢映画館に足を運んだと聞く。けれども、わ
たしはまだ見に行けないでいる。戦争の映画はあまり見
たくない。

太平洋戦争では日本の軍民合わせて三一〇万人が犠牲
になったと厚生労働省が発表している。軍人軍属の犠牲
者は二三〇万人。中国大陸、南方戦線、シベリアで大勢
が亡くなった。多くは兵站を絶たれた餓死によると伝え
られている。一九四四年十月から始められた特攻隊では
六千ほどの若い命が行った。

わずか日本だけでも民間人八十万が犠牲となった。八十
万はあの人であり、この人である。あの子であり、この
子である。誰も死にたくはなかった。辛い人生を送らざ
るを得なかった人は数限りない。ただただ不当だ。

「この世界の片隅に」のヒロインはスケッチが巧みで、
幸せな子ども時代を広島海苔端で過ごしたのち、呉に
嫁ぐ。呉の空襲で一緒に歩いていた幼い姪を失い、自分
の右手を失う。兄は戦死し、原爆で両親を失う。

戦争を背景にした辛いアニメ映画に一九八八年に公開
された「火垂るの墓」がある。テレビ上映を切れ切れに

見はしたものの、まともには見られなかった。「火垂るの墓」の主人公の兄妹は戦争が終わった後に栄養不良で死んだ。投げ捨てられたドロップ缶のふたが開いて中に入っていた妹の節子の遺骨が飛び出し、蛍が浮かび上がるラストシーン。

今、世界のそこそこで戦争がために辛い目に会っている人が大勢いる。この地にてもまた始められようとしている。戦争は物語ではない。目をそらせば済むわけじゃないんだ。(小島)



「別所憲法9条の会」参加の回顧

八王子「別所9条の会」は、私にとって貴重な存在です。なによりも、この会を通して様々な方々と出会ったこと、多くの人々から学び、影響を受けたこ

とです。それらの人々について、三つのグループに分けてお話ししたいと思います。

【第一のグループ】N先生ご夫妻を始め、数人の世話役の方々

定例会・行事（主に講演会、歌唱・舞踊など）の企画・準備・運営など実施していただきました。月一回、定例会の学習資料（映画ビデオなど映像資料も含め）の選定・印刷など作成には大変なご苦労があったと思います。例えば、文書資料にしても、A4サイズの用紙に換算して毎回八〜十枚以上、量としてかなりなもの、内容も具体的に、実証主義が貫かれ、法律など原文のまま、慣れない私たちには難解でした。しかし、噛んで含めるよう解説してくださいました。世話人の方々に改めて感謝したいと思います。「9条の会たより」も発行され、定例会の復習、予習に利用させてもらいました。(二〇一七年二月)

で一一〇号)とにかく、黙々と十年にわたって続けてこられたこと、私には驚異的なことでした。

【第二のグループ】粘り強く、参加し学習を積み重ねられた方々

私が、愚問・見当違いを言っても聴いてくれる、この「傾聴」の雰囲気的魅力でした。さらに感嘆したのは、実践的・行動的であること。多くの女性の方々が、「実践のための学習」という姿勢で、関連する学習会・集会・デモに参加されたことです。堀之内駅頭での宣伝・署名活動、別所一〜二丁目付近でのピラ配布などを実施なされたこと。

【第三のグループ】わざわざ、会の教室に来て、講演・体験談をしてくださった方々

ドイツ人留学生から連邦基本法と日本国憲法の比較を学ぶ。在日コリアン人財育成コンサルタントのSさんの

差別・いじめの話。都立高校S先生(日本史専攻)が「君が代」斉唱で不利益処分を受けた体験。名物校長さんの「卒業式に都の主事たちが監視に来る」嘆き。東京新聞論説委員だったS氏の空襲体験談。九条の会事務局長小森教授や歴教協・沖繩大高嶋教授の講演、中央大Y教授の数回にわたる経済についての講義(リーマンショックの頃で南大沢での「宴会」が付録)。

この「別所9条の会」に参加して、多くの誠実真摯な方々に出会うことができました。実に幸運だったと思います。

(T・B) 生八十三才 別所二・二九



別所憲法9条の会十周年によせて

憲法九条の会が、既に故人になられた加藤周一氏、井上ひさし氏など錚々たる九人のメンバーで発

足した当時、こういう会なら入りたいと秘かに思ったものでした。

七年まえ、音楽のイベント付き講演会のチラシが入り、その主催がなんと、別所憲法9条の会とありました。別所にも九条の会があったなんて！ その講演会終了後、入会いたしました。しかし、毎月の定例の集まりに、予定と重なることが多く参加できたのは半分ぐらいだと思います。

毎回用意してくださる資料と討論・勉強会は、今まで自分が考えていたことよりもっと深く広く視野を拡げてくれるもので、個人的な勉強などタカが知れていると思に至りました。世話人の方々や参加者の真摯な学習態度に、何事もいい加減な私は何度も襟を正しました。また、欠席した日の資料を後日私宅まで届けてくださった世話人の方には本当に頭が下がりました。

私事を少し記させていただきますと、私は、一九三七年盧溝橋事件の年に生まれ、童謡代わりに軍歌を覚え、国民学校に入学したころは、戦時色真つ盛り。一年生の書き初めは「ツハモノ」、二年生は「ウチテシヤママ」で、♪へーいたいさんよーあーりがとおー、と歌っては叔父たち出征兵士を励ましました。昭和二十年、三年生になる前の春休みに、長野県のS市に学童疎開。十一月末、東京に戻った時は栄養失調で半死の状態、意識も朦朧としていました。両親・妹弟が四月の空襲を逃げ延びて、死なずにいてくれたおかげで戦災孤児にならずに済みました。私の中では今でも上野の京成線地下道にいた大勢の男の子・女の子は自分だったとずっと思っています。栄養失調というのは成長期の心身にかなりの痛手だったようで、よく笑う、歌の好きな自分に戻ったと思えたのは、二十代でした。その頃から「戦争責任」「戦争協力」について考えてゆくうち、かつての私は、自分自身

が戦争に協力していたことに気が付きました。「ムジャキな戦争協力者」だったわけです。責任を問われないまでも、無知、無邪気、善意など、学校教育のほかに当時の世間の風潮から受けた教育について考えないではいられません。

民主主義って何だ？をまねる訳ではありませんが、現象の意味をきちんととらえるには、幅広く、色々な人の視点から学び取る。そのための基本となる学習が欠かせないと思います。絶えず学習しながら、行動してゆくこと、及ばずながらですが、憲法9条の会でそれを実践して行きたいと思っています。（坂田美子）

別所9条の会十年にあたって

毎月の例会にほとんど参加できないメンバーなのですが、せっかくの機会なので



ひびく。

厳しさを増す一方の9条・平和憲法を取り巻く環境下、今後の護憲運動・取り組みをどうしていけばよいのか？気になっています。「暮らしの中の憲法」、憲法の掲げる理想を実現し、定着させる努力……。今回の木村草太先生のお話からヒントが得られるのでは？と期待しています。

9条・平和主義のみならず、生存権、平等権、等しく教育を受ける権利等々、憲法の目指す理想がまともに実現されていない……。どころか、状況は悪化し、これらの権利が脅かされている現在の状況、これは、先日の「不思議なくニの憲法」の映画を見て、改めて痛感した処です。その一方で、立憲・民主・平和主義を踏みじる政権は、いよいよ憲法改正⇨改悪に走りつつあります。なし崩しの原発再稼働に突き進むのも、これと軌を一にするものと思います。（原発への対応と護憲の取り組みとの関係については、改めて考えてみたいと思います。）

暴走する政権にいかにも歯止めをかけるか？ 9条のみならず、さまざまな面での憲法が掲げる理想の実現に向けた取り組み、これを通じた幅広い連帯、世代を超えた連帯が、平和憲法を守る運動を大きくしてゆくことに繋がるものと思います。

別所9条の会、今後の取り組みの中で、少しでもできることを実行していきたいと思っています。（大橋）



別所憲法9条の会と巡り合って

私がこの会と出会ったのは、退職後三年半余り過ぎた二〇〇九年の一月であった。平和の集いで、元都立高校の校長・土肥信雄さんの講演が行われた時である。それまで私は囲碁の会に出たり、市のボランティアなどをやって過ごしていたが、これ以後、ほぼ毎回のようにこの会に参加することになった。会でいろいろな

話を聞いたり、資料をもらって読んだりして勉強になることが多かった。また、しばしば集会や講演会などにも参加する機会が増え、私が社会とつながりを持つ重要なチャンネルとなった。

二〇一二年末に第二次安倍政権が発足、以来安倍政権は矢継ぎ早に秘密保護法制定、国家安全保障会議設置、武器輸出三原則の無実化、原発再稼働、憲法9条解釈の変更と安保法制の強行、辺野古新基地建設などなど、国民の多くが反対を表明している政策を強引に実施し続けている。「新しい判断」などと言って、事実を軽視しないし無視する厚顔無恥の政権であり、世界の悪い傾向を先取りしている感がある。このため私たち9条の会も対応に追われる日々が続いている。

この間、私にとって特に印象が強かったのは、二〇一三年四月二十九日、伊藤真弁護士らの憲法講演会（八王子・いちようホール）に参加したことであった。明治憲法が

ら現憲法への大転換、現憲法の理念と基本原理など、非常に分かり易く図解入り資料を使って話され、私は遅ればせにこの日はじめて現憲法の重要性が理解できた気がした。それゆえ、以後私は伊藤真弁護士を私の憲法の先生と勝手に決め、折に触れ当日の講演要旨を読み返している。

本来ならば、忘憂の異名を持つ囲碁を、のんびり楽しんでいたいのだが、憂いを忘れていてもできない情勢であり、市民としての最低限の責任は果たしたいと、老体にムチ打たねばならない。

思えば現憲法施行以来七十年、私は憲法の恩恵を受けるばかりで、自分たちの権利を守るべき努力は、きわめて不十分であったと考えざるを得ない。してみれば、自分が置かれた現状は、当然の報いと知るべきかとも思うこの頃である。(櫻井 浩)



「別所憲法9条の会」への期待

別所憲法9条の会は十年も続いたと聞く。

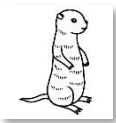
わたくしは一九三九(昭和十四)年生まれである。当時五才だった。十万と言われる人たちが犠牲となった東京下町の空襲の時、真っ赤に染まる空の下、一晚過ごした防空壕の記憶ははっきりと残っている。戦争への道へ近づいてはならないと強く願っていた。

「一億玉砕」「特攻隊」「鬼畜米英」「日独伊三国同盟」「原子爆弾」という言葉は、わたくしより年代の高い方々には忘れられないものと思う。

何故七十年前の出来事が起こってしまったのか？ 避けられなかったのか？ みなさんも同じ思いではないかと思う。課題が大き過ぎて考えても無駄と思う人もいるかもしれない。しかし、この課題を考える「きっかけ」を

学べるのではという期待を持って別所憲法9条の会に参加している。(Y・K)

憲法施行の年に生を受けて



平和が当たり前、日本が戦争なんてありえない、そんな人生を歩んできました。

看護婦の学校に入学しようとした時、母が「日赤の看護婦学校は絶対にダメ」と拒否したことを今思う。「そんな馬鹿な」と口げんかしたことを。母には今の世が映っていたのかも？

大正生まれの両親は戦争まった中の人生、父は二十歳の徴兵検査の後すぐ召集され中国奥地での戦闘に明け暮れ、明日をも知れない日々を送り、多くの戦友を失い、自分も作戦中の事故？で失明寸前となりながらも奇跡的に除隊となり帰国。母は十五歳で单身満州に渡り看護

婦に。「お国のためなら何も怖くなかった、日本が中国の人たちのために戦っていると信じていたが行ってみるとそうでなかった。日本軍が中国人を足枷して連行していてビックリした」とも言う母。九十五歳になる母は「平和が一番・今が一番幸せ」と言い続ける。そんな母は、今も父の軍人恩給を受けている。日本はまだ戦後処理中。他にも多くの戦後処理課題を残すこの国。

私が幼いころ、夕方になると父が一人ぼんやりと窓辺に座っていたことを今も忘れられません。戦地でのことは一度も口にせず、私も聴くことが出来ないまま、九十歳で逝った父が、戦後の長い日々をどのような思いで暮らしたのかと思うと、今も胸が詰まる私。

伯母の夫は四人の子供を残して戦死、街から疎開してきた家族の厳しい暮らしも忘れない。もう一人の伯母の夫も結婚六か月で召集され戦死、子供もなく七十五歳まで働き続ける人生だった伯母。今は二十代の夫の軍服姿の

遺影の横に、九十歳で亡くなった伯母の遺影が微笑んで
いる。

こんな人生を送る人々が二度と出ない世の中に、と願わ
ずにおれません。

計り知れない苦難の日々、多くの犠牲者のいのちをかけ
て生み出された平和憲法が今危機に。

立憲主義の回復を!! 平和を守れ!! の市民運動の大き
なうねりの中で実現した野党共闘などなど、希みを胸に、
みなさんと共に歩み続けたいと思います。(関)

別所憲法9条の会 月例会のテーマ一覧

- 2016年 11月 DVD「高江・森は泣いている」上映会
10月 沖縄の現状を学ぶ・意見交換
9月 「日本会議」について意見交換
8月 映画「不思議なクニの憲法」の上映会
7月 参議院選挙結果をうけて今後の活動の相談
6月 「経済成長」について考える
5月 「自民党緊急事態条項」について考える
4月 例会はやめて、講演会に参加「緊急事態条項ってなに？」日
体大清水雅彦教授
3月 お花見／会のこれからの取組みについての相談
2月 沖縄の新基地建設・安保法制と東アジアの情勢
1月 DVD上映「辺野古新基地反対の記録」と意見交換
-
- 2015年 11月 「戦争法」廃止に向けて
10月 同上
9月 延長国会終了後の運動の進め方相談
8月 講演会「憲法学者が語る…安保法制関連法案と日本国憲法」
7月 DVD上映／「戦争法案」の国会審議をどう見るか？
6月 DVD上映「沖縄は今」辺野古新基地建設反対運動（辺野古基
金にカンパ募集）
5月 日米ガイドラインを読む／駅前宣伝のポスター作製など
4月 安全保障法制はどうか？／会としての今後の活動相談
3月 九条の会全国集会報告／最近の言論界の現状について
2月 ボツダム宣言と日本国憲法の平和主義
1月 戦後・被ばく70年 私たちにできることは？
-
- 2014年 12月 集団的自衛権と日米ガイドラインの学習
10月 朝日新聞バッシングに見る・今何が起きているのか？
9月 DVD上映「太陽と月」（日本国憲法の水脈・誕生）
8月 集団的自衛権容認反対パンフレット作成相談
7月 集団的自衛権行使容認の動きをめぐって

- 6月 同上
- 5月 靖国神社見学会
- 4月 最近の世論調査や米大統領の来日に関して
- 3月 花見ランチ会／DVD 上映「STOP 戦争への道」
- 2月 ツイッターの使用方法的講習会／都知事選結果の意見交換
- 1月 九条の会学習会「最近の情勢分析」の報告を聞き意見交換

2013年 11月 戦争する国づくりをどう食い止めるか？
10月 九条の会学習会の報告・秘密保護法などの学習
9月 DVD上映「オリバーストーンが語る原爆・戦争・アメリカ」
7月 参議院選挙結果・一票の格差問題など
6月 都議会議員選挙結果・憲法に対する各党の姿勢は？
5月 改憲の動向を見る・自民党の改憲草案・緊急事態条項など
4月 自民党の改憲草案に見る、人権問題を中心に
3月 自民党の改憲草案を見る
2月 同上
1月 憲法をめぐる情勢の確認・私たちにできることは？

2012年 11月 今伝えたい事・私たちにできることは？
10月 南大沢地域合同講演会「福島から憲法を考える」
9月 憲法9条25条の成立事情
7月 脱原発国会包囲デモに参加
6月 DVD上映「内部被ばくを生き抜く」と意見交換
5月 放射能学習会
4月 別所平和のつどい「放射能と付き合いゆくための知恵」
3月 平和のつどい準備
2月 東アジアの平和を築くために
1月 同上

2011年 11月 日本の安全保障について
10月 9条を持つ国で・一国の防衛とは
9月 今平和を考え、伝えたい事など
7月 自然エネルギーについて
6月 放射能が体に及ぼす影響について・放射能廃棄物の処理は？
5月 原発の歴史を学ぶ
4月 東電の原発事故から…原発・核兵器について考える
3月 みんなでお花見交流
2月 DVD上映「よみがえる戦場の記憶」と意見交換
1月 高橋伸欣さんの講演から学んだことなど交流

2010年 12月 別所のつどい「今沖縄は…わたしたちに問われていること」
琉球大学高嶋教授
11月 つどいの準備
10月 つどいのテーマなど検討・準備
9月 沖縄の歴史をたどる
7月 経済の講座を聞いての意見交換
6月 連続講座「日本の経済と社会はどう変化するのか？」
5月 4月の連続講座を聞いて意見交換
4月 連続講座「新自由主義と覇権主義からの決別」
3月 2月の連続講座を聞いて意見交換
2月 連続講座「民主党中心の連立政権成立野歴史的意義」
1月 民主党政権発足3か月に考える（グループ討論）

-
- 2009年 11月 平和のつどい「今学校はどうなっているの？」（元高校校長の土肥さん）
- 10月 続・憲法9条をめぐる新しい政治情勢
- 9月 憲法9条をめぐる新しい政治情勢
- 7月 歴史を学ぶ「日米開戦から終戦まで」
- 6月 戦争とメディア・報道の書任
- 5月 歴史を学ぶ「日中戦争とその時代 No.2」
- 4月 ソマリア沖への自衛隊派遣をめぐる
- 3月 この会で今後取り上げたいことなどグループで意見交換
- 2月 歴史を学ぶ「日中戦争とその時代」
- 1月 歴史を学ぶ「満州事変から日中全面戦争へ」
-
- 2008年 11月 歴史を学ぶ「植民地支配の歴史」
- 10月 地域をつなぐ平和のつどい演奏と講演「いわさきちひろの世界」松本由理子さん
- 9月 日本の戦後処理・過去にどう向き合うか？
- 7月 ドイツの戦後処理を学ぶ「過去の克服と平和」ドイツ留学生を講師に迎えて
- 6月 DVDを見て「思いやり予算・米軍基地問題」を考える
- 5月 自衛隊イラク派遣違憲判決文（名古屋高裁判決）を読む
- 4月 DVD「小田実・遺す言葉」を観て意見交換
- 3月 お花見交流会
- 2月 自民党改憲草案が実現したら日本はどうなる？
- 1月 「靖国神社」を考える
-
- 2007年 11月 平和のつどい「変えてはいけない憲法九条」九条の会事務局長小森教授を迎えて）
- 10月 靖国神社見学会
- 9月 アジアの平和と日本国憲法
- 7月 二大政党と選挙制度について
- 6月 戦後政治の総決算と改憲の動き
- 5月 私と憲法・施行60年の今考える
- 4月 国民投票法制定の動きをみる
- 3月 講演会「日本国憲法と21世紀の世界」
- 2月 国民投票法の問題点を見る
- 1月 戦後61年と日本国憲法 その2
-
- 2006年 11月 戦後61年と日本国憲法
- 10月 別所平和のつどい（弾き語り）と講演「世界に輝く憲法をなぜ捨てようとするの？」

9月 戦後 61 年の夏に思うこと

7月 アジアの現実と平和憲法

6月 東京都の「日の丸・君が代」強制の主な動き